

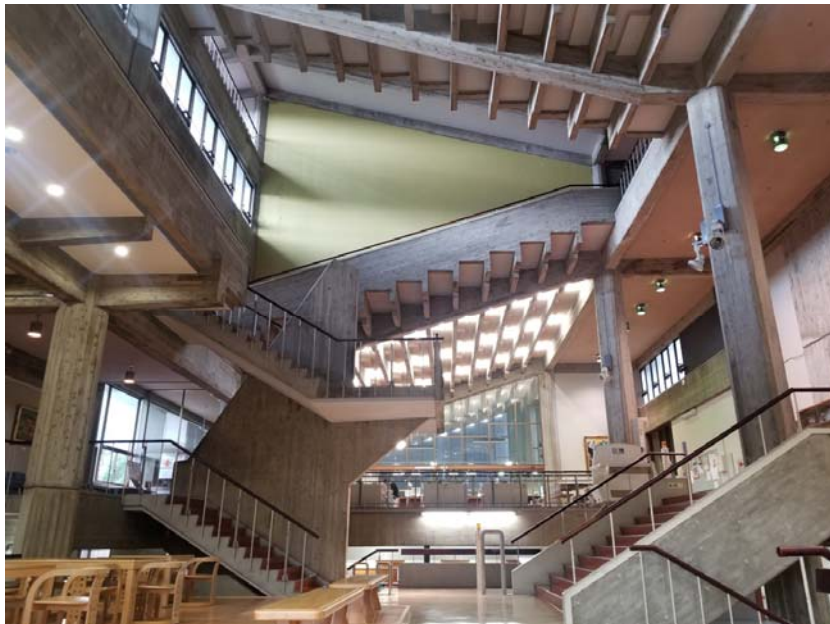
金沢工業大学本館(現・1号館)が建築物としての歴史的価値が評価され
「日本におけるモダン・ムーブメントの建築 226 選」に選定
DOCOMOMO Japan 選定建築物選定プレート贈呈式を開催

金沢工業大学本館(現・金沢工業大学 1 号館)が建築物としての歴史的価値を評価され、今年 4 月、DOCOMOMO Japan から「日本におけるモダン・ムーブメントの建築 226 選」に選定されたことをうけ、選定プレートの贈呈式が 9 月 5 日(木)12 時 15 分より 1 号館 2 階ラウンジにて行われます。

DOCOMOMO Japan 選定建築物・金沢工業大学本館 選定プレート贈呈式

1. 日時 令和元年 9 月 5 日(木)12 時 15 分～12 時 35 分
2. 会場 金沢工業大学扇が丘キャンパス 1 号館 2 階ラウンジ
3. 式次第

挨拶・贈呈	一般社団法人 DOCOMOMO Japan 代表理事	渡邊研司
プレート受け取り	学校法人金沢工業大学 理事長	泉屋吉郎
建物評価	DOCOMOMO 対応 WG 前主査	穎原澄子
建築解説	金沢工業大学 教授	水野一郎



独自の空間造形が高く評価された 1 号館内部

【モダンムーブメントについて】

「モダン・ムーブメント」は 20 世紀の建築の主要な潮流のひとつで、18 世紀から 19 世紀に端を発する合理的、社会改革的な思想や技術革新を背景に、1920 年代から 1930 年代に西欧で明確な形をとりはじめ、線や面の構成による美学にもとづいた建築を多数生み出してきました。日本においてもその影響を受けた建築が建設され、現存している建物は日本の近代化の足跡を語るうえで重要な文化的遺産と考えられています。

「日本におけるモダン・ムーブメントの建築 226 選」は、モダン・ムーブメント(近代運動)の推進に寄与した建築の記録と現存建物の保存に関する活動を展開する国際的な学術組織 DOCOMOMO(The Documentation and Conservation of buildings, sites and neighborhoods of the Modern Movement の略称、「ドコモモ」と読みます)の日本支部 DOCOMOMO Japan が一般社団法人日本建築学会の協力を得て取りまとめたもので、以下の基準にもとづいて選定しています。

- a.装飾を用いるのではなく、線や面の構成による美学が適用されている。
- b.技術の成果がデザインに反映されている。
- c.社会改革的思想が見られる。
- d.環境形成(広場や建築群の構成)という観点でデザインされている。

【金沢工業大学本館について】

「金沢工業大学本館」(現・金沢工業大学 1 号館)は扇が丘キャンパス北校地で 1969 年に竣工しました。設計者は大谷幸夫です。大谷は学園という人間形成の場に何を提案すべきかを考えました。人間形成は教室というフォーマルなもののみでは十分でなく、教員と学生、学生相互のインフォーマルな接触によって育まれるものも重視した大谷は、学園を構成する 3 者、学生、教員、事務職員がインフォーマルな人間相互の接触が誘発される空間として可能な限り大きな広場を建築内部につくりだすことを提案しました。本計画では教室棟、研究棟、事務棟という 3 者の空間を独立的に設置し 3 者の自律性を実現しながら、一体的な交わりも強く求めました。「建設中に安田講堂占拠があったように大学紛争が続いていた時期ゆえに、この決断は大きかった」(『国際建築』1967 年 6 月号)と大谷は述べています。

【金沢工業大学本館に対する DOCOMOMO Japan の評価について】

金沢工業大学本館に対する DOCOMOMO Japan の評価は、以下の大学のニュースで掲載しています。

https://www.kanazawa-it.ac.jp/kitnews/2019/0427_DOCOMOMO.html